

2. 研究会課題

研究会課題に関しては従来からの研究会をも含めて設定課題ごとに対応する研究会に整理統合する方針で募集し以下の6件が採択された。

1. 課題Ⅰ ニホンザルの群れの統合機構
2. 課題Ⅱ 適応論をめぐって
3. 課題Ⅲ 霊長類の生殖・成長・発達
—成果の分析と検討—
4. 課題Ⅳ Domesticationの生態学と遺伝学
5. 第9回行動研究会。霊長類の知的行動
—道具の使用を中心に—
6. 第11回ホミニゼーション研究会。
—直立二足歩行の起源をめぐって—
(杉山)

2. 研究成果

A. 一般共同研究

設定課題Ⅰ

「群れの統合機構に関する研究」

幸島群における未経産メスの社会的位置

宮藤浩子(京大・霊長研)

ニホンザルのメスの一生の中で子どもから母親への移行期にあたる未経産メスの時代は、子ども時代の社会関係から、新たにオトナの社会関係を形成する過程であり、社会的に重要な時期である。このような未経産メスを中心とした様々な Social Interaction の分析から、彼女たちの社会的位置を明らかにし、メスの生活史全般を考察することを目的として調査を行なった。

幸島においては、本年度(1981年)3頭のメスが出産を迎えた。これらのメスの関与する Social Interaction (特にグルーミングと近接)が出産によってどのように変化するのかに注目した。また、この3頭を含めて、新生児を持った10頭のメスは出産後の数カ月間、他のメスたちから積極的な接近行動を受けたが、この接近行動の方向性(接近者と被接近者)及び発現頻度の変化にも着目した。

以上、親和的 Interaction を中心とした観察結果から、群れ内におけるメスの社会的位置が未経産メス→初産メス→経産メスと段階的に変化していくことがわかった。姉妹など血縁関係にある個体同士の親和的關係は、出産を契機として極端に疎遠になる傾向があった。一方、これとは反対に、非血縁個体との親和關係は、彼らの接近行動がきっかけとなって発達する傾向がみられた。接近行動は、未経産メスや新生児を持たない経産メスだけではなく、新生児を持ったメスにもみられ、また接近の相手にはかなり高い選択性が認められた。このことから、接近行動は新生児への関心だけではなく、より社会的な motivation に基づく行動であることが示唆される。

今後は、接近行動をさらに詳細に分析してその motivation を明らかにすると共に、拮抗からの考察が必要であろう。